

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

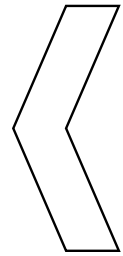
平成19年度 第3号

2007年10月31日

北海道立栽培水産試験場  
調査研究部

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605



### 道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

調査船金星丸（函館水試）により実施したスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成19年10月24日～10月26日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深100～500m海域

- ・ 魚群は渡島から胆振支庁海域に広く分布
- ・ 分布水深は250～400m
- ・ 計量魚探の平均反応量は前回（9月上旬）および前年同期調査より高い値
- ・ 今後、漁獲量増加の予想

1. 渡島から胆振支庁海域ではスケトウダラと考えられる魚群が広く観察されました。渡島海域では鹿部沖の188、192海区の沖側（D線）、胆振海域では白老沖の179、182海区の沖側（I線）および鶴川沖の172海区（M線）で特に強い反応が観察されました（図1）。これらの濃密な魚群は、昼間でも海底から離れていました（図2）。分布水深は250～400mの範囲にあり、沖側の水深300～400m海域の反応が強い傾向がありました。
2. 日高支庁海域では全般的に反応が弱く、魚群の分布水深は渡島・胆振海域よりやや浅く250～300mの範囲でした（図1および2：O、Q、S線）。
3. スケトウダラの平均反応量は前回（9月上旬）および前年同期調査より高い値でした。
4. 調査海域沖側の反応が強かったことから、新たに魚群が来遊してきたと考えられます。ただし、渡島から胆振海域では魚群が昼間でも海底から離れていたことから、漁獲への加入はやや遅れて11月上旬頃と予想されます。これらの魚群が漁獲に加わるようになると、漁獲量も増加すると予想されます。
5. 次回の調査は11月末を予定しています。

スケトウダラニュースはインターネットで栽培水試ホームページからご覧になれます。

ホームページアドレス

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

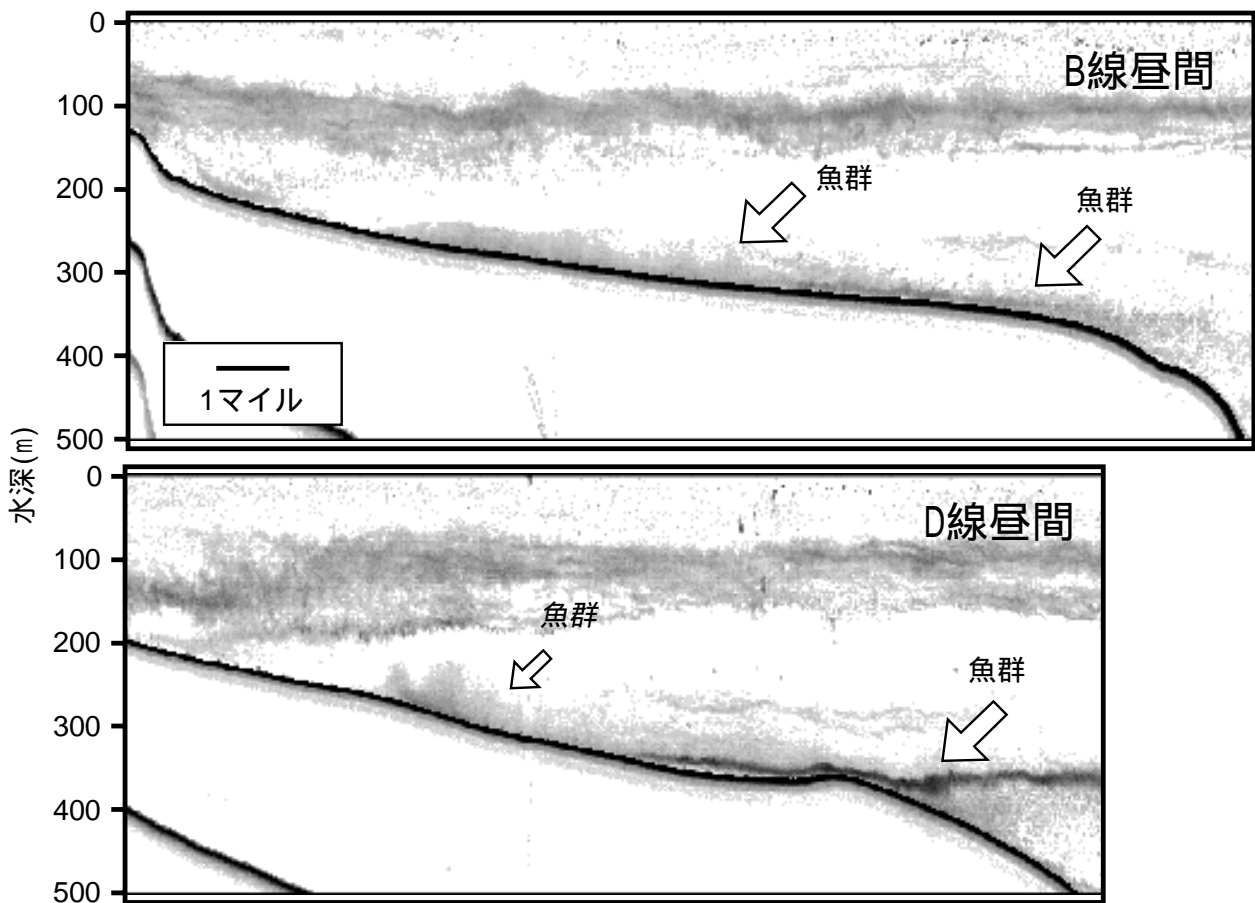
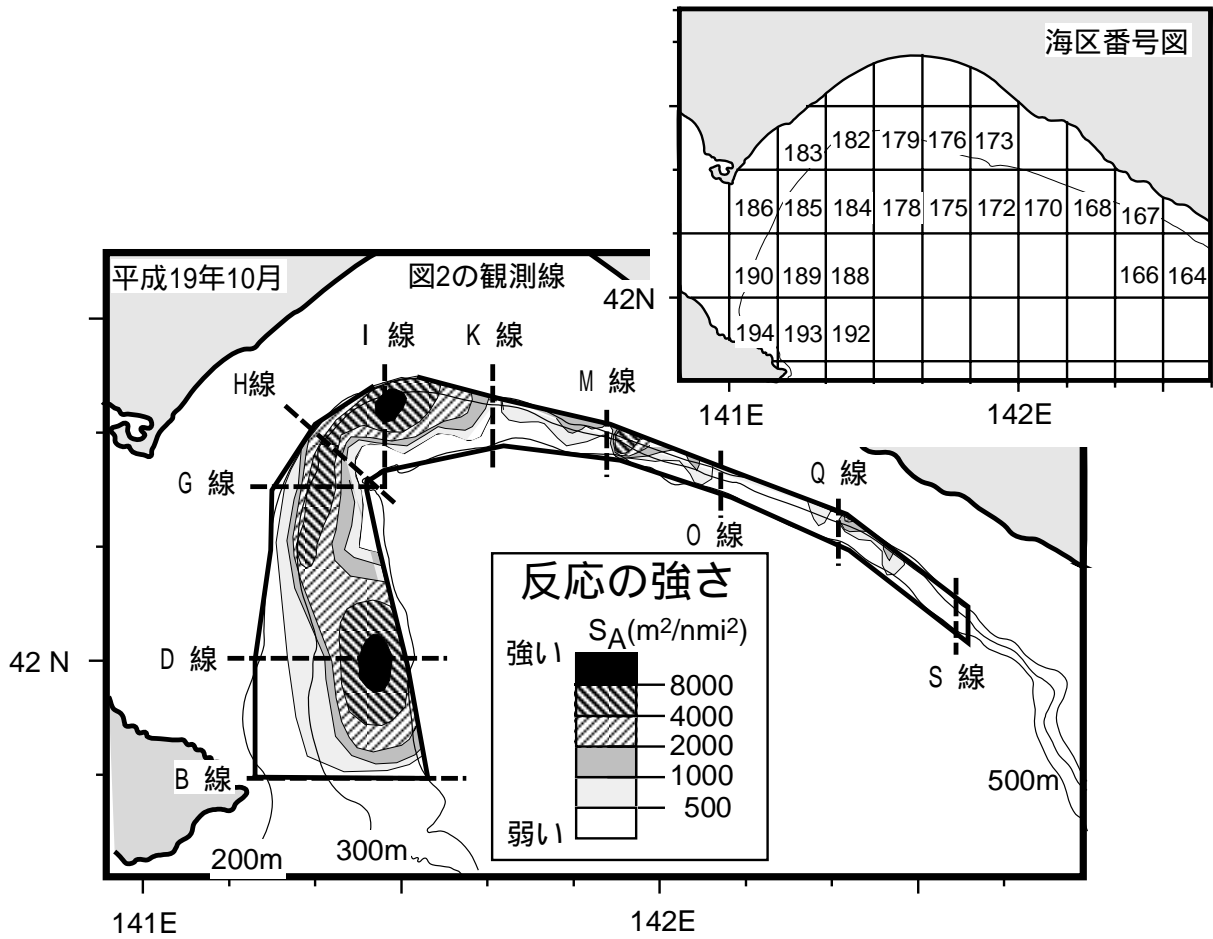


図2. 魚群の分布 (計量魚探画像)

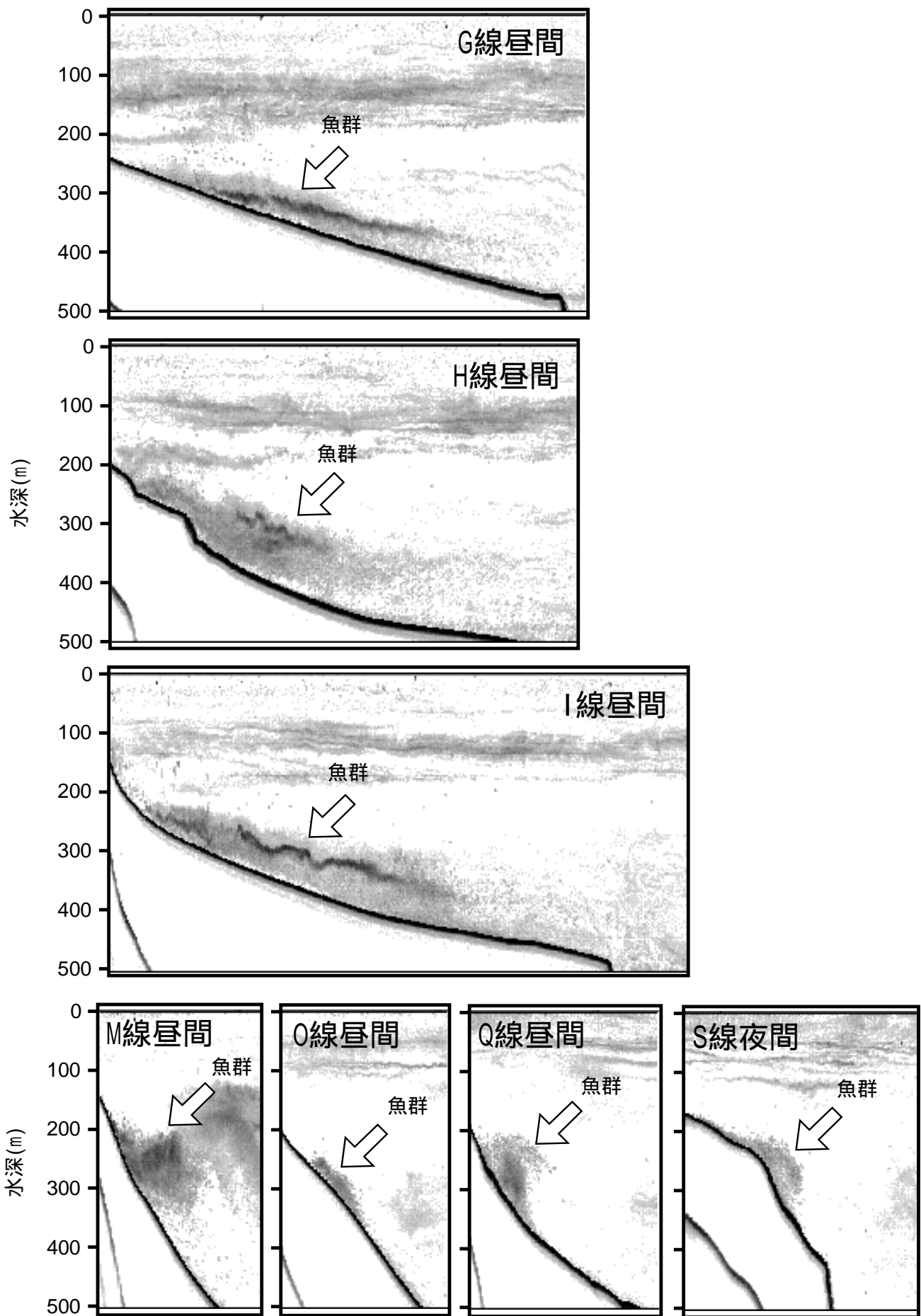


図3. 魚群の分布 (計量魚探画像) つづき